

令和7年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会

議事概要

■日時：2026（令和8）年3月5日（木） 13：30 ～ 15：30

■会場：摩周観光文化センター 視聴覚室

住所：北海道川上郡弟子屈町摩周3丁目3-1

<議 事>

- (1) 今年度実施事業の結果報告および実施計画（第1期）の総括
- (2) 次年度の予定次期実施計画の策定に向けた今後の方針について
- (3) その他

<資 料>

資料 1 対策整理表

資料 2 協議会構成員による今年度の主な取り組み状況

- ① 環境省の取り組み
- ② エゾシカ捕獲数及びライトセンサスの結果（R7）
- ③ 根釧西部森林管理署の取り組み
- ④ 釧路総合振興局の取り組み
- ⑤ 前田一步園財団の取り組み

資料 3 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画（第2期）改定案

資料 4 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画に係るモニタリング計画

資料 5 今後の現地研修会・協議会の進め方について

参考資料 1 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 設置要綱（更新）

参考資料 2 阿寒摩周国立公園阿寒生態系維持回復事業計画

参考資料 3 新旧対照表 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画（第2期）改定案

参考資料 4 新旧対照表 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画に係る植生モニタリング計画改定案

令和 7年度 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 出席者名簿

1. 構成員

所属・役職	氏名
環境省 釧路自然環境事務所 国立公園課 国立公園企画官（議長代理）	渡邊 雄児
林野庁 北海道森林管理局 計画保全部 保全課 野生鳥獣管理指導官	西浦 哉【Web】
林野庁 北海道森林管理局 根釧東部森林管理署 次長	神馬 基夫
林野庁 北海道森林管理局 根釧西部森林管理署 地域林政調整官	後藤 健一
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署 総括地域林政調整官	清水 亜広【Web】
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署 事務管理官	会田 翔【Web】
林野庁 北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 次長	中山 佳之【Web】
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係長	小川 耕平【Web】
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 技師	小野寺 岳史郎【Web】
北海道 十勝総合振興局 保健環境部環境生活課 環境生活課長	内田 朋宏【Web】
北海道 十勝総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係長	滝下 麻耶【Web】
北海道 十勝総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主事	道下 翔【Web】
北海道 釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係長	牛嶋 あすみ
北海道 釧路総合振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主任	押切 麻衣子
北海道 根室振興局 保健環境部環境生活課 自然環境係 主事	林 優斗【Web】
足寄町 農林課 ゼロカーボン推進室 主幹	沼田 直志【Web】
標茶町 農林課 林政係 主事	松江 悠人【Web】
弟子屈町 農林課 林務係 主事	瀬尾 隼也
鶴居村 産業振興課 林政係長	奥山 祐他【Web】
一般財団法人前田一步園財団 森林保全課長	酒井 賢一

2. オブザーバー

釧路市 産業振興部 農林課 阿寒農林振興係 主任	安宅 弘志
釧路市 阿寒町行政センター市民課 環境係 主事	坂田 岳斗
北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社 技術次長	田保 英俊【Web】
北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社 技術 施設グループ グループリーダー	脇原 渉【Web】

3. 有識者

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 生物多様性保全グループ 研究主幹 兼 道東地区野生生物室長	稲富 佳洋
---	-------

<環境省・事務局>

環境省 釧路自然環境事務所 国立公園課 世界自然遺産専門官	鈴木 郁子
同 生態系保全等専門員	酒井 優太
同 阿寒摩周国立公園管理事務所 国立公園調整官	柳川 智巳
同 国立公園管理官	白出 晶太郎
同 阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	福田 幸音
特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 理事長	赤松 里香【Web】
同 研究員	小林 恒平
同 研究員	牧野 楓

<意見概要>

発言者	内容
環境省 鈴木	<p>●開始挨拶</p> <p>●配布資料の確認</p> <p>●協議会の位置づけの説明</p> <p>【参考資料1：阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 設置要綱（更新）】</p> <p>設置要綱の更新箇所について説明します。2ページ目の構成員一覧をご覧ください。昨年度までは、北海道庁（本庁）が構成員でしたが、本年度からは各振興局が構成員となりました。また、釧路市は昨年度までオブザーバーでしたが、本年度からは構成員に変更となりました。その他、役職についても更新しています。</p>
環境省 渡邊（議長代理）	<p>確認のあった更新箇所に関して、ご意見はありますか。</p> <p>なさそうですので、協議会として承認していただいたということで、今後はこの設置要綱に従って運営していきます。ありがとうございます。</p> <p>本日は議長である釧路自然環境事務所統括自然保護企画官が欠席のため、国立公園企画官が議長代理として進行させていただきます。</p>
(1) 今年度実施事業の結果報告および実施計画（第1期）の総括	
環境省 鈴木	【資料1：対策整理表（実施計画より抜粋）】
EnVision 小林	<p>【資料2①-1：環境省の取組（植生調査結果）】</p> <p>【資料2①-2：環境省の取組（GPS首輪による行動追跡結果）】</p> <p>【資料2①-3：情報共有のあり方・仕組み検討の総括】</p>
北海道立総合研究機構 稲富	<p>（【資料2①-1：環境省の取組（植生調査結果）】に対して）</p> <p>高山帯で、エゾシカによる食痕を量的に把握する調査を新しく始められたとのことで、これは非常にいいことだと思います。というのも、植物の数を調べる調査では、一度なくなってしまうと回復するまでにとても時間がかかりますが、食痕はその年の痕跡であるため、仮にエゾシカの個体数が減少した場合には食痕も少なくなることが想定されます。そのため、短期的な捕獲の効果等を確認するためには非常に良い手法だと思いました。</p> <p>質問ですが、資料の中に「5段階で記録した」とありますが、これは一本の木でどれだけ食べられているのかを5段階で評価したということなのでしょうか。</p>
EnVision 小林	<p>まずツツジ類の結果ですが、株ごとに見て、その株の何パーセントがエゾシカに食べられているのかを記録しました。一方で、イワブクロの方は個体ごとに記録するのが難しく、食痕がある個体は大抵つぼみを食べられているため、1m×1mの範囲のうち何パーセントが食べられているのかを記録しました。</p>

	<p>図の丸1つが1つの個体を表しています。今後、毎年どのように比較していくか、数が減ってしまうことも含めて追跡の方法を検討する必要があると考えています。</p>
前田一步園財団 酒井	<p>(【資料2①-1：環境省の取組(植生調査結果)】に対して)</p> <p>植生モニタリングのまとめで記載されていますが、今一度確認したいと思い、発言させていただきます。今年度は5年間の取り組みの総括ということで、調査結果等をまとめられましたが、この5年間、様々な機関・組織で対策は実施してきたものの、残念ながら状況が改善しているところはなく、さらに悪化の傾向が見られる、もしくは影響が大きかったものは依然として大きいままであるというような総括、という理解でよろしいでしょうか。</p>
EnVision 小林	<p>はい、おっしゃる通りの状況です。</p>
環境省 柳川	<p>(【資料2①-1：環境省の取組(植生調査結果)】に対して)</p> <p>植生調査結果の2ページ目の左側に、阿寒湖畔森林の植生調査結果のグラフがありますが、この出現種数について教えていただきたい点があります。排除区と対照区で出現種数が示されていますが、エゾシカを排除している排除区の方で種数が低く、対照区の方で種数が多くなっているのは、どのような状況なのでしょう。例えば、エゾシカが好まない植物が残って種数が多くなっているのか、そうではないのか、状況を教えてください。</p>
EnVision 小林	<p>種ごとに示せばよかったです。対照区と排除区で出てくる種が変わっています。排除区はシカの影響が低いためササが多く、ササの下に様々な植物が生えている状態です。一方、対照区ではササが一度なくなり、そこにその年に飛んできた種が一旦生えて、また食べられるという状況になっています。その影響もあり、種数は対照区の方が多くなっています。今回はその差が少し縮まっているという状況でした。</p>
EnVision 小林	<p>【資料2②：エゾシカ捕獲数及びライトセンサスの結果(R7)】</p>
根釧西部森林管理署 後藤	<p>【資料2③：根釧西部森林管理署の取り組み】</p>
釧路総合振興局 牛嶋、押切	<p>【資料2④：釧路総合振興局の取り組み】</p>
前田一步園財団 酒井	<p>【資料2⑤：前田一步園財団の取り組み】</p>
北海道立総合研究機構 稲富	<p>コメントです。今回、国有林、振興局、前田一步園でそれぞれ囲い罠を設置されており、三者三様の成果だったと思います。囲い罠の特徴として、なかなか移設ができないという点があり、一度その場所に設置すると、エゾシカがどれだけ出現するかに依存する部分が大いだと思います。そうした意味では、国有林の捕獲では、そもそも周辺にシカが来ていなかったとのことで、捕獲場所の選定の段階から難しかった部分もあったのではないかと思います。また、振興局の方は想定より捕獲数が少なかったというこ</p>

	<p>とですが、今回設置した場所は、もともと前田一步園が捕獲を行っており、エゾシカが集まっているという話があった場所だったと思います。それにもかかわらず捕獲数が伸びなかったのは、今年の雪の影響なのか、あるいは周辺の捕獲圧の影響なのか分かりませんが、私の印象としても、今年は阿寒湖の南側であまりエゾシカを見なかったように感じています。そのため、年によって状況がかなり変わるのだと思います。今年度に関しては、前田一步園の場所、特に阿寒湖の北側ではエゾシカが多く、捕獲もできていたということで、こうした当たり外れが比較的大きい手法が困り畵なのではないかと感じました。</p> <p>そうした点を踏まえると、今後ぜひ検討していただきたいのが、畵を残置できる仕組みです。現在は事業の性質上、一度設置した畵も撤去しなければならないケースが多いと思います。振興局の畵も今年度終了後には撤去することになるとは思いますが、可能であれば畵を残置できる仕組みを設けた方がよいのではないかと思います。困り畵の数が増えていけば、その中からどこで重点的に捕獲するかを選択できるようになるのではないのでしょうか。例えば、その年にシカが多い場所で集中的に捕獲するといったように、その年の状況に応じた畵の運用が可能になるのではないかと思います。もちろん、土地所有者との関係や法律、事業の性質上、そのまま残すことが難しい場合もあるとは思いますが、エゾシカがその年にどこに来るかは不確定な部分もありますので、あらかじめ畵が設置されている場所を増やしておくことは有効ではないかと思います。その年にシカが少ない場所であれば、畵があっても捕獲を行わないという選択もできますし、その分、別の場所で重点的に捕獲を行うこともできると思います。そうした形を今後検討されてもよいのではないかと思います。</p>
<p>前田一步園財団 酒井</p>	<p>稲富さんのコメントに対して、私も思うところをお伝えしたいと思います。私どもも困り畵を設置したものの、全くエゾシカが来なかった年もありました。また、同じ年の中でもよく入る畵と入らない畵があり、このような状況は実際に運用しているとよくあることだと思います。ただ、今回成功した要因の一つとして、この協議会が発足したことも非常に大きく、良い影響を与えていただいたと感じています。といたしますのも、以前は国立公園内に一時仮設物として畵を設置しており、目的達成後には撤去するという条件のもとで設置していました。そのため、毎年餌場の様子を見ながら、エゾシカが集まりそうな場所を選んで畵を設置し、2基、3基と機動的に運用していました。ただし、一度設置すると簡単には移動できないという課題もありました。そのような中で、この協議会が発足し、5年間の対策期間の中で実施できるようになったことで、畵を継続して設置できるようになりました。これにより、設置や撤去にかかるコストを抑えることができ、その分を新たな困り畵の設置に充てることもできました。その</p>

	<p>結果、年々困り餌の数を増やすことができ、今回の成果につながった要因の一つではないかと考えています。</p> <p>今後もこのような良い影響を生かしながら、来年度の対策を進めていきたいと考えています。</p>
環境省 渡邊（議長代理）	<p>私から、振興局の禁猟区におけるエゾシカの取り組みについてお伺いします。次年度は基本的に継続とお話だったと思いますが、場所が変わると森林施業者なども変わってくると思います。そうした新しい場所での可能性も出てくるのでしょうか。</p>
釧路総合振興局 牛嶋	<p>はい、そうですね。今回については、場所ありきで、森林施業者と調整がついたところで実施するという形で進めたため、地域の調査があまりできていませんでした。今年度はその点が反省点でもありますので、来年度はまずエゾシカがいる場所の選定から入りたいと考えています。</p> <p>その上で、良い場所だと判断できたところについて、森林管理者や関係機関と調整を行い、そこに関わる森林施業者の方々にお話ししていきたいと考えています。</p>
環境省 渡邊（議長代理）	<p>こうした取り組みについて、この協議会の中でも実績として見えてくれば、環境省としても以前から検討していきたいと考えていたところですので、大変ありがたいと思います。</p>
(2) 次期実施計画の策定および今後の方針について	
環境省 酒井	<p>【資料3：阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画（第2期）改定案】</p> <p>【参考資料3：新旧対照表 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画（第2期）改定案】</p> <p>※資料訂正：8ページ目（2）行動圏及び季節移動状況の把握 2行目 誤）計12頭 → 正）計20頭（R7年度時点）</p>
EnVision 小林	<p>【資料4：阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画に係るモニタリング計画】</p> <p>【参考資料4：新旧対照表 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画に係る植生モニタリング計画改定案】</p>
環境省 酒井	<p>【資料5：今後の現地研修会・協議会の進め方について】</p>
環境省 渡邊（議長代理）	<p>今ご説明させていただいたとおり、率直に申し上げますと、環境省としては予算をなかなか増やせる見通しが立っていないという状況があります。実情としては毎年予算要望を行っていますが、環境省の釧路管内では、知床や釧路湿原でもエゾシカ対策を実施しています。残念ながら知床でも、これまで多くの予算を投じてきたにもかかわらず個体数が増えているという状況があり、世界遺産でもあることから、さらに対策を進めていかなければならない状況にあります。ただ、そちらについても実際には予算が削減されている状況です。また、釧路湿原についても一</p>

	<p>部報道にありましたが、捕獲は一定程度進んでいるものの、個体数を減らすところまでは至っていないという状況です。そのような中で、阿寒湖周辺でも協議会を立ち上げ、捕獲を位置付けることで予算確保につながるのではないかと期待もあったかと思いますが、残念ながら現状ではそのような形にはなっていません。ただし、求められているのは捕獲対策であると認識していますので、先ほど事務局からご説明したとおり、環境省として事業を実施する以上、植生保護という目的は必要であり、モニタリングをすべて削ることはできませんが、削減できる部分は見直しながら、できるだけ捕獲や捕獲支援に充てていきたいと考えています。また、司令塔としての役割という点では、予算だけではなく、私たちが動くことで何かお手伝いできることがないかという観点から、今回ご説明させていただきました。</p> <p>関係機関の皆様が大変な努力をされている中で、十分とは言えない部分もあるとは思いますが、環境省としても限られた予算の中でできることを考えた結果として、このような提案をさせていただいています。本日いただいた率直なご意見も踏まえながら、できるだけ皆様のお役に立てる形で進めていきたいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。</p>
<p>前田一步園財団 酒井</p>	<p>この会議の冒頭でも私から少し質問させていただきましたが、この5年間の成果がどうだったのかという点について、残念ながら状況は悪い方向に進んでいるというお話がありました。</p> <p>ただ、この5年間、環境省の皆様も含め、私も含めた構成員全員が「何とかしなければならぬ」という思いで取り組んできたと思っています。精一杯取り組んできた中で、うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあるというのが実情だと思います。野生動物を相手にしている以上、「ここではなく別の場所に罠を設置していれば、もっと捕れたのではないかと」いったことも、よくある話です。私たちとしても、自分たちの山や見える範囲の状況を踏まえながら、「去年はこうだったが、今年はどうだろうか」といったことを考え、知恵を絞って取り組んでいます。ただ、広い国立公園全体で見れば、私たちが対応しているのは点のような範囲であり、その中で試行錯誤しているという側面もあります。</p> <p>こうした5年間を踏まえ、これから先の5年間を見据えると、構成員の皆様方、私どもも含めて、努力量をさらに倍増させるというのはなかなか難しいのではないかと思います。場合によっては、さまざまな課題もあり、現在の取り組みを維持すること自体が難しくなる可能性もあります。そのような中で、限られた資源をいかに有効に使っていくのかということが、この5年間を見てきた中で改めて重要だと感じています。</p>

	<p>例えば、罟の設置位置について各機関や近隣市町村と連携し、より効果的な配置について助言をいただくなど、予算を簡単に増やすことができない状況の中で、いかに効率的に事業を進めていくのかという点については、環境省の司令塔機能に大いに期待しているところです。そのために必要な協力については、ぜひ私どもとしても積極的にさせていただきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>北海道立総合研究機構 稲富</p>	<p>残念ながら、前年度計画の中で想定していたような捕獲の実施が実現できず、結果として捕獲支援という形になったという点については、ある意味で環境省としては後退したように見える部分もあるかと思えます。ただ、逆に言えば、捕獲支援という枠の中でできることを幅広く実施していくという考え方でもあると思いますので、その点については期待したいところです。</p> <p>先ほど計画の工程の説明の中で、捕獲支援の内容についてはまだ具体的には決まっておらず、柔軟に対応できるようにしているというお話がありました。確かにその通りだと思いますが、一方で、柔軟性があるがゆえに対応が後手に回ってしまい、なかなか具体的な取り組みが決まらないという可能性もあるのではないかと感じています。そのため、例えば捕獲支援の別紙3にはさまざまなメニューが示されていますが、その中から一つ軸となる取り組みをあらかじめ決め、それに向けてトライアンドエラーを進めていくという方法もよいのではないかと思います。特に、おそらく振興局の事業などもそうだと思いますが、予算が限られている中で実施する事業では、関係機関との調整が非常に大きな柱になってくると思います。調整の過程でさまざまな事情により状況が変わることも多く、その結果、うまくいく取り組みとそうでない取り組みが出てくるのが実情だと思います。だからこそ、何ができて何ができないのかという点を、できるだけ早い段階で明確にしていくことが重要だと感じています。</p> <p>先ほど酒井さんからもお話がありましたが、現在はエゾシカが増えている状況にあります。対応が遅れれば遅れるほど、状況がさらに悪化し、取り返しがつかなくなる可能性もあります。そのため、スピード感を持って進めることが重要であり、うまくいかないこともあるとは思いますが、できるだけ早い段階で取り組みの軸を決め、進めていくことがよいのではないかと感じました。</p>
<p>環境省 渡邊（議長代理）</p>	<p>まさに今回のこの場で、どのような支援や取り組みをしてほしいのかといった具体的なご意見をいただければ、それを次年度の取り組みに反映していきたいと考えています。</p> <p>1つは、現在装着しているGPS首輪の電池が切れてしまうという課題があります。そのため、次年度以降は追跡できる個体がいなくなってしまう状況になります。そこで、その更新に予算を充てるのか、あるいは捕獲の具</p>

	<p>体的な手法の検討として、例えばくくり罠を実際に設置して捕獲を試みるなどの選択肢があります。本来であれば両方実施できればよいのですが、残念ながら予算的には両方行うのが難しい状況です。。先ほど稲富先生からお話があったように、資料に記載しているメニューの中で、例えばボランティアハンターやマップ作成など、「こういったことを実施してほしい」といった具体的なご要望があれば、限られた予算をその部分に重点的に充てて次年度の取り組みを進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>そうしましたら、なかなか発言しづらい部分もあるかもしれませんが、皆様から一言ずつでもご意見をいただければと思います。皆様のご意見を踏まえながら、環境省としてできることを検討していきたいと考えています。</p> <p>まずは会場にお越しいただいている皆様から、順番にご意見を伺えればと思います。</p>
<p>釧路市 安宅</p>	<p>私どものエゾシカ対策といたしましては、有害捕獲をこれまでも継続して実施してきております。ただし、国立公園内における市としての捕獲については実施しておりません。そうしたこともあり、現在は前田一步園さんが進めている囲い罠の取り組みに対して連携する形で進めさせていただいているところです。近年、エゾシカについては間違いなく増えているのではないかと感じています。地元で実施している有害捕獲の捕獲頭数がかなり増えており、ハンターの方々からも「シカが多い」という話を聞いています。令和6年度についても、9月までの時点で捕獲頭数が前年より500頭ほど増えている状況です。現在も有害捕獲を進めているところです。</p> <p>また、本日お越しいただいている稲富さんからもいろいろと助言をいただきながら、1月から3月にかけてはメスジカの捕獲強化ということで有害捕獲を進めております。ハンターの方々の話では、1月中旬頃からメスジカが群れで見られるようになった一方、2月に入ると一時的に見られなくなり、捕獲が難しくなっているという話も聞いています。ただ、いずれにしても近年は捕獲頭数が増えている状況であり、生息数自体は増加しているのではないかと感じています。また、前田一步園さんが進めている囲い罠についても、かなりの数が捕獲されていると聞いております。</p> <p>国立公園内については、今後も前田一步園さんと連携しながら捕獲の強化を進めていきたいと考えています。今回の協議会においても、前田一步園さんが進めている取り組みに対して支援が進めば、捕獲や生息数の減少にもつながっていくのではないかと考えております。</p> <p>今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>

司令塔に期待するものとして、2点申し上げます。

まず1点目ですが、持てるリソースをどのように最適に配置するかということが、次の5年間の成功のキーポイントになるのではないかと考えています。そのため、事業者や自治体、あるいは個別の地域だけでなく、全体を見た中での配置が重要になると思います。今回ご説明のあったように、エゾシカの移動に合わせて関連の深い地域でグループを構成するという考え方については、非常に賛同するところです。そのうえで、リソースの最適配置を考えるために、ぜひ教えていただきたい情報として、いわば「エゾシカ予報」のようなものがあります。例えば、この地域には今後多く集まる可能性がある、夏にはこの辺りで増える可能性がある、あるいは減少する見込みがある、といった見通しです。もし減少が見込まれるのであれば、その地域に投入しているリソースを、増加が見込まれる地域に回すといった判断もできるのではないかと思います。今回も、ライトセンサスの結果であったり、捕獲数の状況であったり、また捕獲が進めば局所的には減少する可能性があるといったお話など、さまざまな兆しとなる情報をいただきました。例えば、ある地域で減少が見られれば、その影響が季節移動によって他地域に及ぶ可能性もあると思います。そうした全体的な見通しを、リソースの最適配置のための情報として、司令塔の立場からご提示いただくと大変ありがたいと考えています。

2点目ですが、今後の作戦や計画を作成される際には、ぜひ大きな全体プランを示していただきたいと思います。おそらく今後、計画をもとに関係者で議論し、「ここは私たちが担当する」「ここはこの機関が担う」といった形で役割分担を整理していくことになると思います。その際、すべてがすぐに実現できるわけではないとしても、まずは網羅的で大きなプランを描いていただきたいと思います。今すぐには着手できないとしても、この5年間、あるいはその先も見据えた中で「やはりこれは必要だ」という取り組みもあるはずです。実現可能性の高いものだけに絞るのではなく、まずは大きな構想を示していただき、その中に私たちがそれぞれの役割として関わっていく形がよいのではないかと考えています。その過程で、空白となる部分が出てくるかもしれません。その場合には、「ここは誰が担うのか」「どのような手法で進めるのか」「どのように予算を確保するのか」といった議論につながっていくのではないかと思います。

少し抽象的なお話になってしまい恐縮ですが、以上の2点、すなわちリソースの最適配置のための情報提供と、当初段階での大きな全体プランの提示をお願いできれば、私たちとしてもより一層取り組みに力を入れていけるのではないかと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

	<p>ます。</p>
弟子屈町 瀬尾	<p>弟子屈町におけるエゾシカ対策は、主に有害駆除が中心となっています。最近、ハンターの方からも、山の餌が減少してきた影響で、農地や人里周辺にエゾシカが増えているとの報告を受けています。実際、現地を確認すると、複数の場所で作物が食害されており、来年度以降の農家の経営状況にも影響が出る可能性があるとのこと。2、3件程の被害は聞いており、農業への影響は徐々に大きくなってきている状況です。</p> <p>また、有害駆除はこれまで4月から10月までの期間に申請を出していて、現時期には申請外となるため、ハンターの方にはボランティアとして対応していただき、役場も可能な範囲で協力している状況です。農家が減少すると町全体にも影響が出るため、町としてできる限りの協力を行っていきたいと考えています。今後は、皆様のご意見を伺いながら、協力体制を検討していきたいと思います。農家の減少は町全体への影響にもつながるため、町としてできる限り協力していきたいと考えています。今後は、皆様のご意見を伺いながら、協力して取り組んでいきたいと思います。</p>
根釧西部森林管理署 後藤	<p>阿寒摩周国立公園内には国有林も含まれますが、その中でのエゾシカ捕獲にも取り組んでいます。特に川湯周辺では国有林内にエゾシカが比較的多く生息していると感じています。夏期の有害駆除などが実施できれば捕獲数は減少すると思われませんが、登山者の存在などもあり、大規模な事業を実施することは難しい状況です。そのため、現状では罠や籠などを用いた捕獲を中心に行うしかないと考えています。</p> <p>一方で、弟子屈町の川湯裏側の農地周辺で有害鳥獣駆除を実施したい場合は、捕獲連携事業として取り組むことも可能です。次年度以降にそうした検討がある場合は、ご相談いただければ対応していきたいと考えています。</p>
根釧東部森林管理署 神馬	<p>根釧東部森林管理署管内の国立公園の面積は小さいものの、地続きの土地であるため、中標津地区でも引き続きエゾシカ対策を検討しています。特に今回、有用だったのはライトセンサスの情報です。中標津の農地でエゾシカの発見例が増えていることが確認でき、当署でも防風林内での生息状況を注視しつつ対応していきたいと考えています。今後もライトセンサスのデータ提供を継続していただければと思います。</p>
釧路総合振興局 押切	<p>私は今年度、釧路に移動してきたばかりです。今回、越冬地集中捕獲事業の場所を選定するにあたり、前田一步園さんなどからお話を伺いながら進めてきました。ただ、エゾシカの冬季の動きについては、私の方ではまだ十分把握できていない部分があります。例えば、捕獲を開始するタイミングや、罠をどの場所に置き、いつ移動させるかといった運用</p>

	<p>のタイミングです。前田一步園さんや関係者の皆さんと協力しながら継続して対応していけるのであれば、こうした情報をもとにより効果的に罠の運用ができるのではないかと考えています。もし可能であれば、こうした細かい情報を共有していただけると大変助かります。</p>
釧路総合振興局 牛嶋	<p>国立公園内で行っているエゾシカの捕獲事業については、各機関でどのように実施しているかの情報共有があまり十分ではありません。そこで、この協議会の中で情報共有を行いながら進めることが重要だと思います。例えば、国立公園内では、現在、囲い罠が中心になっています。ただ、囲い罠にあまりエゾシカが入らない場合には、別の方法で国立公園内に逃げ込んだ個体を捕獲するといった連携事業を、より効率的に実施できないかという課題があります。しかし、予算の確保は重要なポイントです。北海道で捕獲されているエゾシカのほとんどは、市町村が有害駆除として捕獲しているため、市町村との連携が欠かせません。市町村と協力し、ハンターの方にも明確な目的をもって動いてもらうことが必要です。</p> <p>そのため、国立公園内の捕獲事業を効率的に進めるには、予算の活用や確保の方法も含めて検討することが大切です。例えば、有害駆除の予算については農林水産省から十分に配分されていない場合があると聞いています。環境省の立場から、国の中で予算確保に関する調整を行っていただければ、各市町村でも有害駆除をより促進できるのではないかと考えています。</p>
北海道立総合研究機構 稲富	<p>冒頭、渡辺さんから来年度のGPS首輪について、「電池が切れてしまうのでデータを取るか、それとも試験的な捕獲を行うか、どちらがよいか」といった話がありました。私の考えとしては、試験的な捕獲支援を行い、実際の捕獲に結びつく取り組みを優先すべきだと思います。というのも、第一期の実施計画の中で得られた情報を、第二期ではどう活用するかが重要だからです。既に一定量のGPS首輪データがありますので、それを使って本当に効率的に捕獲できるか、実際に検証してほしいと思います。例えば、柵の隙間を抜けている個体がいる場合、その情報をもとに集中的な捕獲を行えるかどうかの検討も必要です。また、捕獲を実施する上での体制面の問題も重要です。冬期にハンターさんがボランティアとして対応している場合、適切な情報を提供すれば、国立公園内でも積極的に捕獲してくれる可能性があります。報奨金がなくても協力してくれる方がいるかもしれません。</p> <p>こうした点を想定しながら、次年度の計画や調整を進めていくのがよいのではないかと思います。</p>
鶴居村 奥山	<p>鶴居村には、南部に釧路湿原国立公園、北部に阿寒摩周国立公園があります。ただ、どうしても釧路湿原の方の被害が目立ってしまい、北部</p>

	<p>での被害はあまり目にすることがありません。また、北部でのエゾシカ捕獲の報告もあまり上がっていない状況です。</p> <p>しかし、この状況も今回の取り組みの背景が影響しているのではないかと考えています。ですので、稲富さんがお話されていたように、捕獲につながる取り組みを北部でも進めていただけると大変助かると感じています。</p>
環境省 渡邊（議長代理）	<p>環境省も捕獲して欲しいという期待に、お応えできていない現状で、次年度以降、この会議をどこまで継続する意味があるのか、逆に皆様に負担をかけてしまっているのではないかと、という議論も内部でありました。しかし、本日皆さまから温かいご意見をいただき、環境省としても引き続き何かお手伝いできることがありそうだと感じました。予算が限られている中でも、汗をかくことで少しでもお役に立てるよう、今後も努力していきたいと思えます。</p> <p>個別の具体的な内容については別途ご相談させていただく場合があります。また、エゾシカ対策については、阿寒摩周国立公園内に限らず、全体で被害を減らせるよう取り組み、効果を高めていきたいと思えます。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
(3) その他	
環境省 鈴木	●閉会挨拶